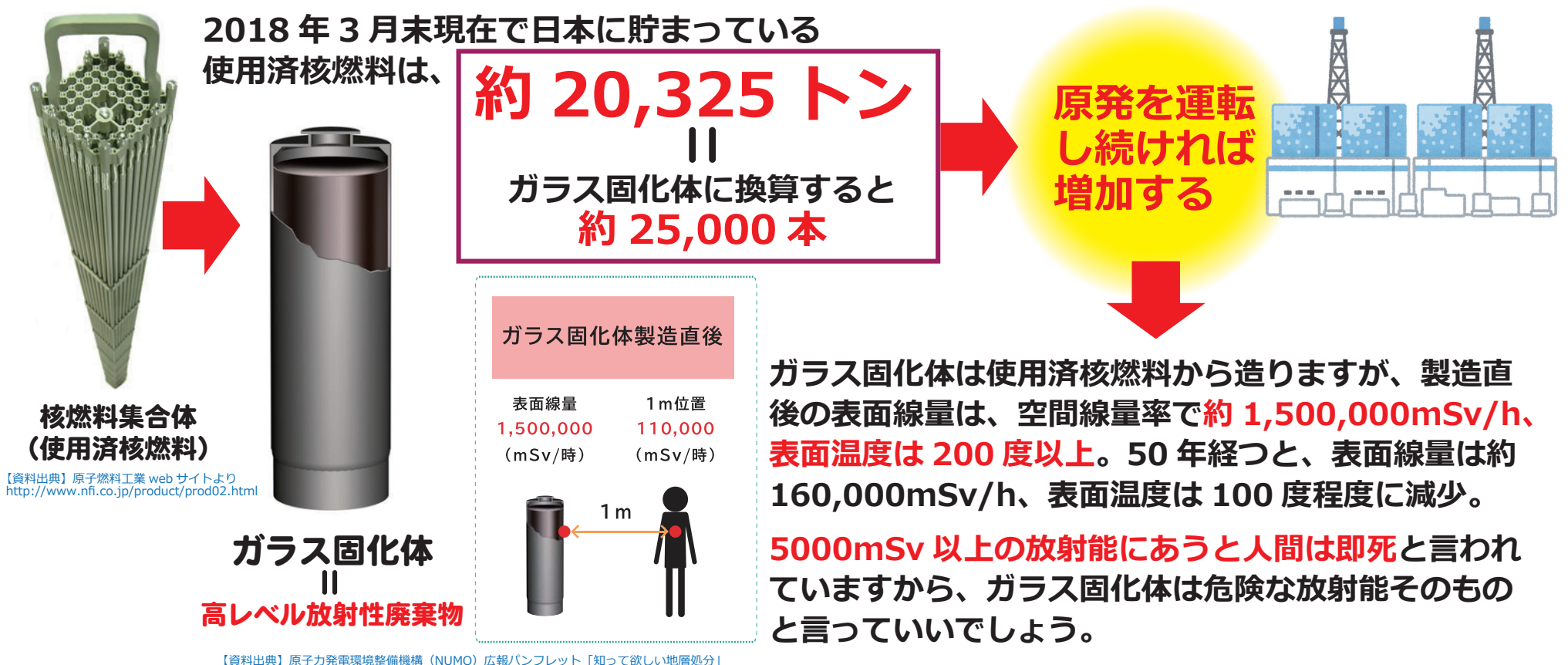


頭の痛い放射性廃棄物問題

私たちにとっても、原発推進の人たちにとっても、頭の痛い問題は、原発から出てくる大量の放射性廃棄物です。よく「トイレなきマンション」と例えられますが現実にはそんな生やさしいものではありません。

放射性廃棄物は放射能そのものであり、放射能は私たちに“がん”、心臓疾患、臓器不全など、命と健康を根底から脅かす存在だからです。核種によっては数万年にわたって嚴重に隔離・管理していかなければなりません。

高レベル放射性廃棄物



メドが立たない高レベル放射性廃棄物の処分

- まず、高レベル放射性廃棄物とはいったい何か？という問題があります。日本では使用済核燃料からウランやプルトニウムなどを取り出して（再処理）再利用する（核燃料サイクル）という建前になっていますから、使用済核燃料＝高レベル放射性廃棄物とはなりません。再処理しても、どうしても使えない廃棄物が出てきますが、それを「ガラス固化体」＝高レベル放射性廃棄物ということになります。
- ところが国の政策として、核燃料サイクル事業をあきらめているアメリカなどは、使用済核燃料そのものが高レベル放射性廃棄物となります。
- 高レベル放射性廃棄物であるガラス固化体は、表面の放射線量は約 1,500,000Sv/h であり、人間が近づくことすらできません。表面温度も約 200 度程度と、極めて危険なシロモノです。これに様々な加工を施した上で、キャニスターと呼ばれる容器に入れ、地下 300m 以深に造った処分施設に格納して数万年に渡って保管するというのが処分の基本的な考え方ですが、現在にいたっても肝心の処分場候補地すら見つからないのが現状です。高レベル放射性廃棄物は全くメドが立っていないし、総費用すら雲をつかむような話です。

地層処分場イメージ

